

PG α-08 講義 5

サビ児管同士の連携

～就労事業からサビ児管プロセスを考える～

大阪市職業リハビリテーションセンター
酒井 京子

R6年度報酬改定

就労系サービス

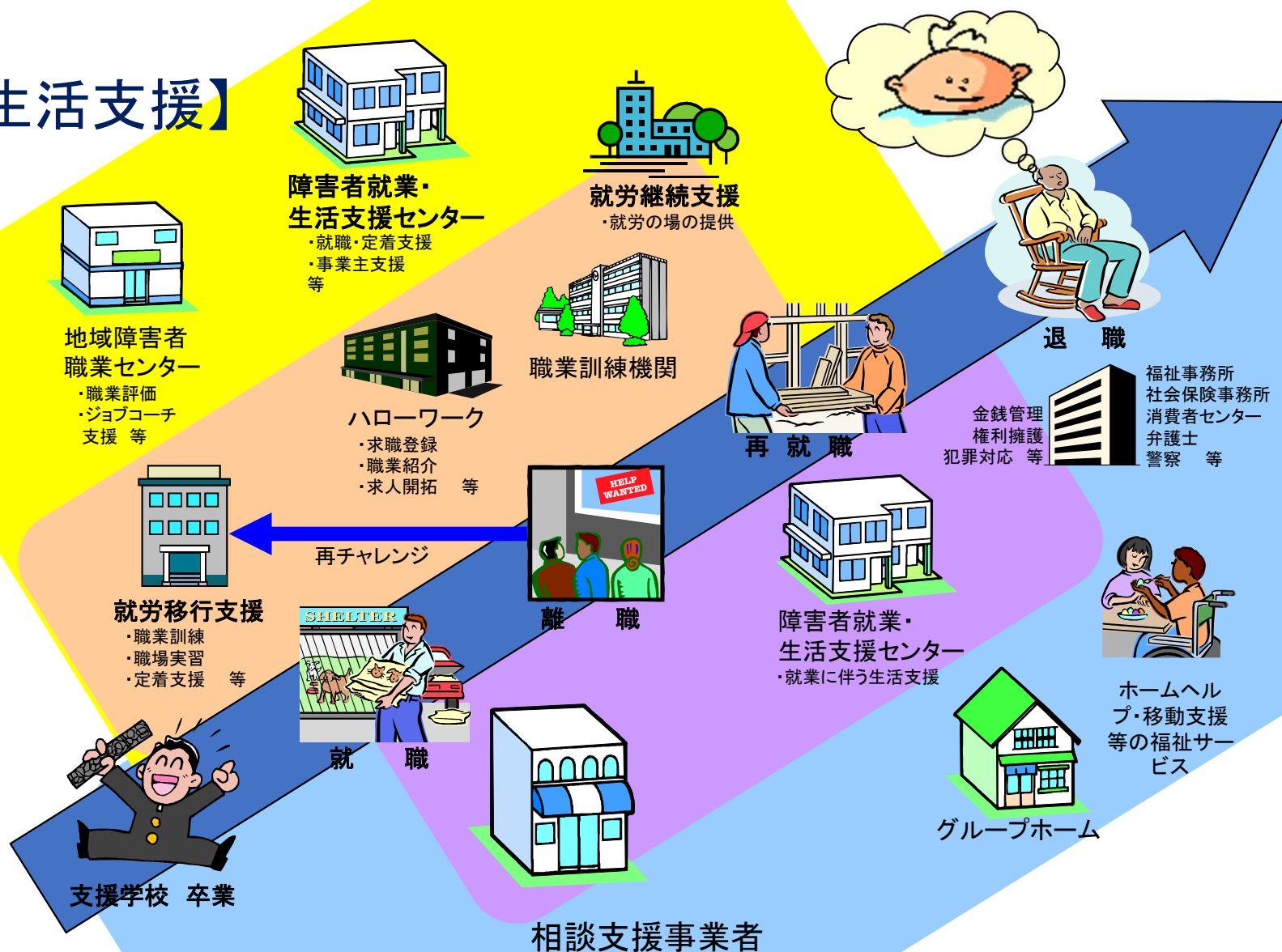
支援計画会議実施加算の見直し

○ 地域連携会議実施加算（Ⅰ） 583単位／回

サービス管理責任者が就労移行支援計画等の原案の内容及び実施状況（利用者についての継続的な評価を含む。）について説明を行うとともに、関係者に対して、専門的な見地からの意見を求め、就労移行支援計画等の作成、変更その他必要な便宜の供与について検討を行った場合に、1月につき1回、かつ、1年につき4回を限度として、所定単位数を加算する。

職業生活のライフステージに対応した障害福祉サービスの活用(例)

【職業生活支援】



【日常生活支援】

- 連携やネットワークは必要だと思いますか？
- そう思うとしたら、なぜ必要だと思いますか？

連携には相手がある！

まずは相手を知る、地域を知る
ことから

→地域によって社会資源はさまざま

地域格差が課題に

どんな機関と連携していますか？

【就労支援機関】 ・ ・

【生活支援機関】 ・ ・

【医療機関】 ・ ・

【教育機関】 ・ ・

【児童分野機関】 ・ ・

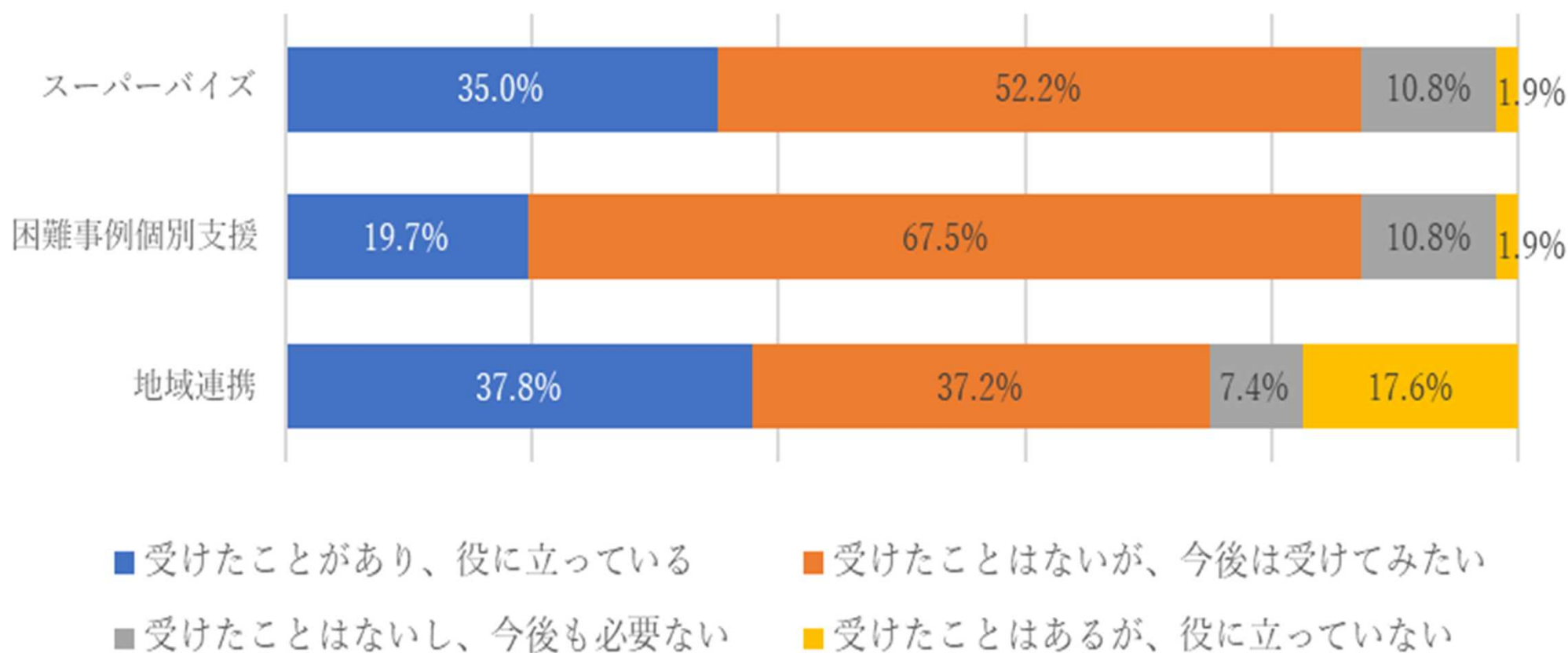
【行政】 ・ ・

【インフォーマル】 ・ ・

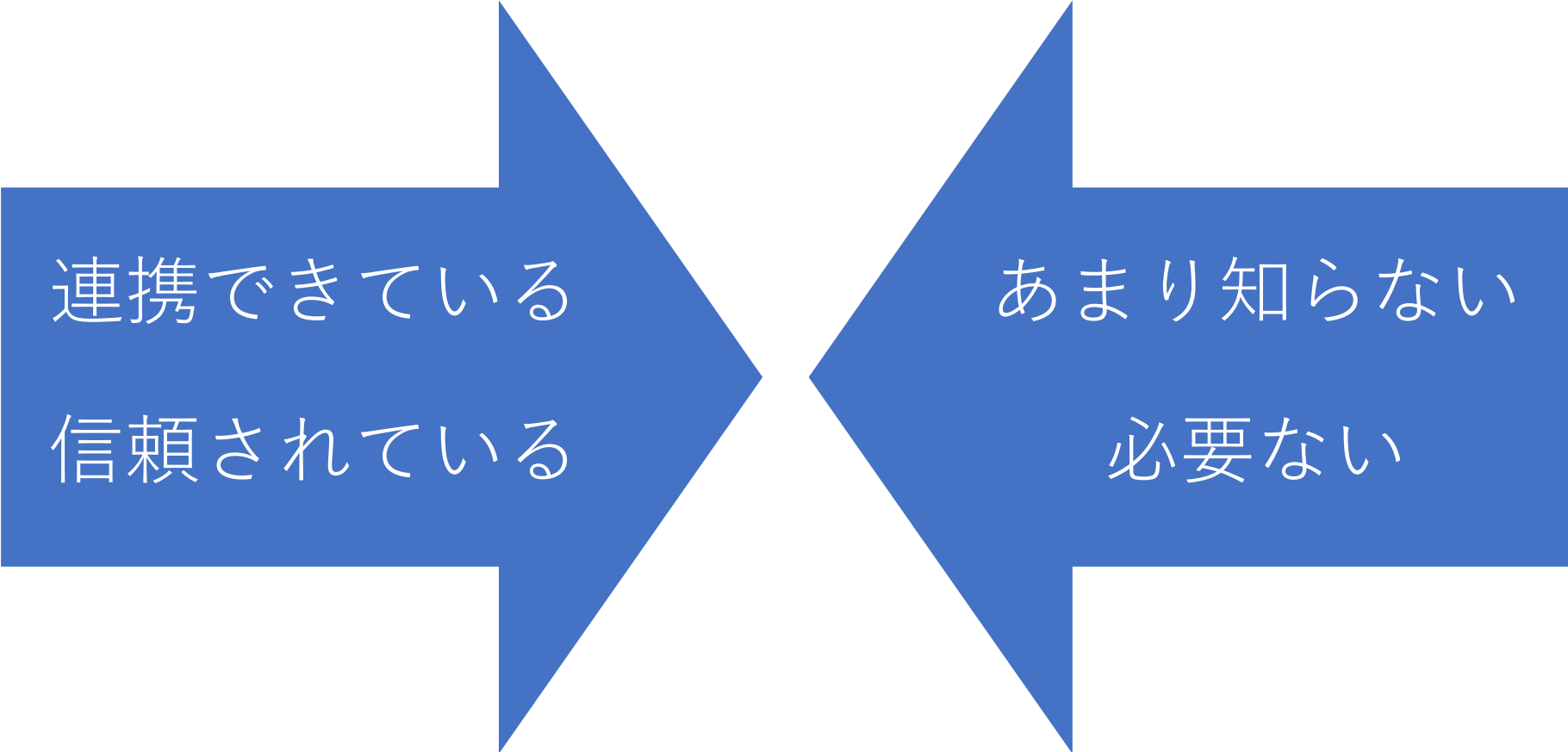
【その他 ・ ・ 】 ・ ・

モデル6センターにおける地域の就労支援機関に対する意識調査結果

取組みの項目別有用度（6センター合計）



お互いの認識にズレが・・・



連携できている
信頼されている

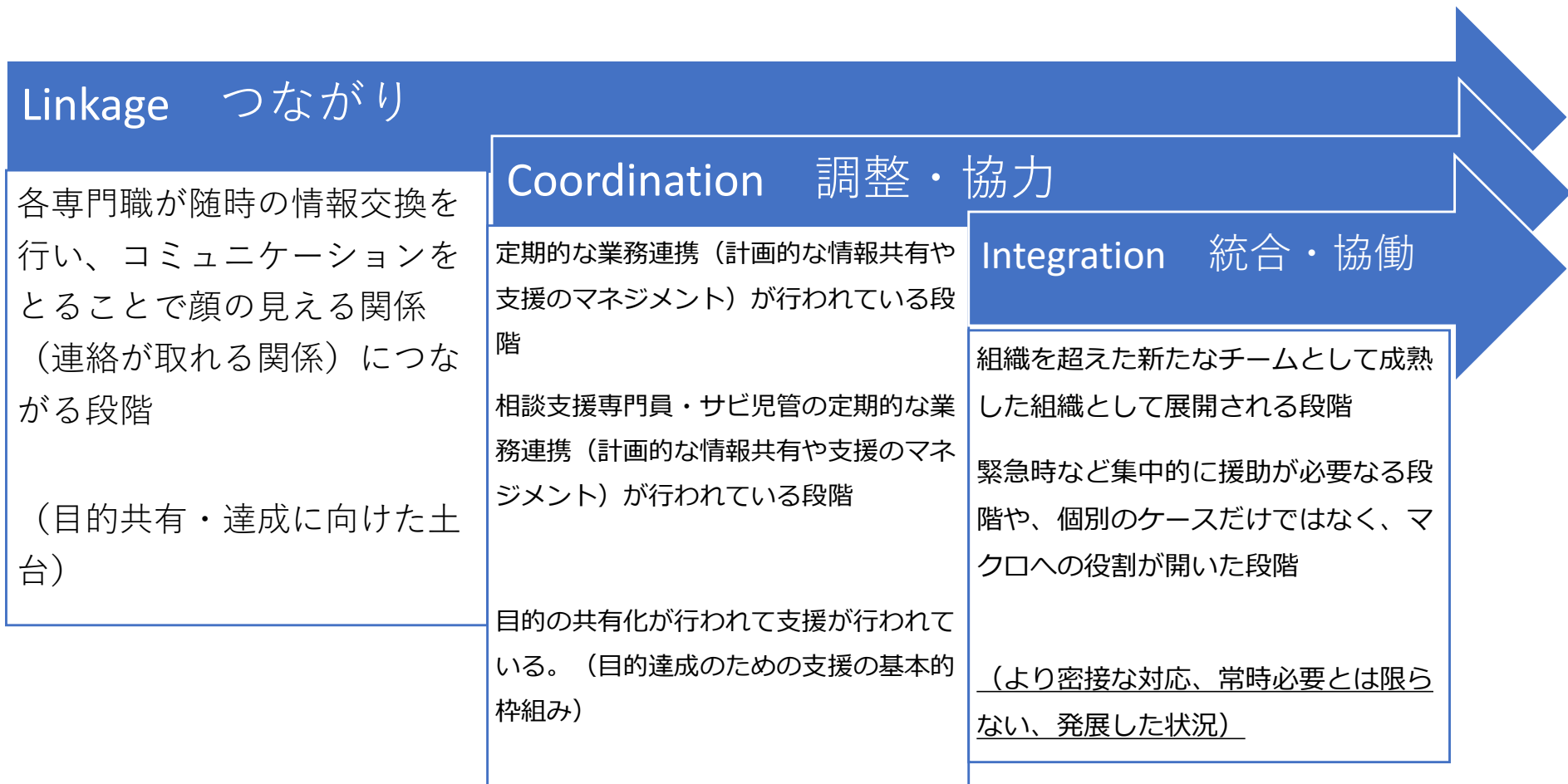
The diagram consists of two large blue arrows pointing towards each other, meeting at a central point. The left arrow contains the text '連携できている' and '信頼されている'. The right arrow contains the text 'あまり知らない' and '必要ない'. This visualizes the concept of a 'gap' or 'discrepancy' in mutual understanding between two parties who are actually working together and trusted, but have different perceptions of their relationship.

あまり知らない
必要ない

地域連携が機能するには

- 「地域を知る」
- 「自事業所の地域での役割を認識する」
- 「そのうえで実働する」

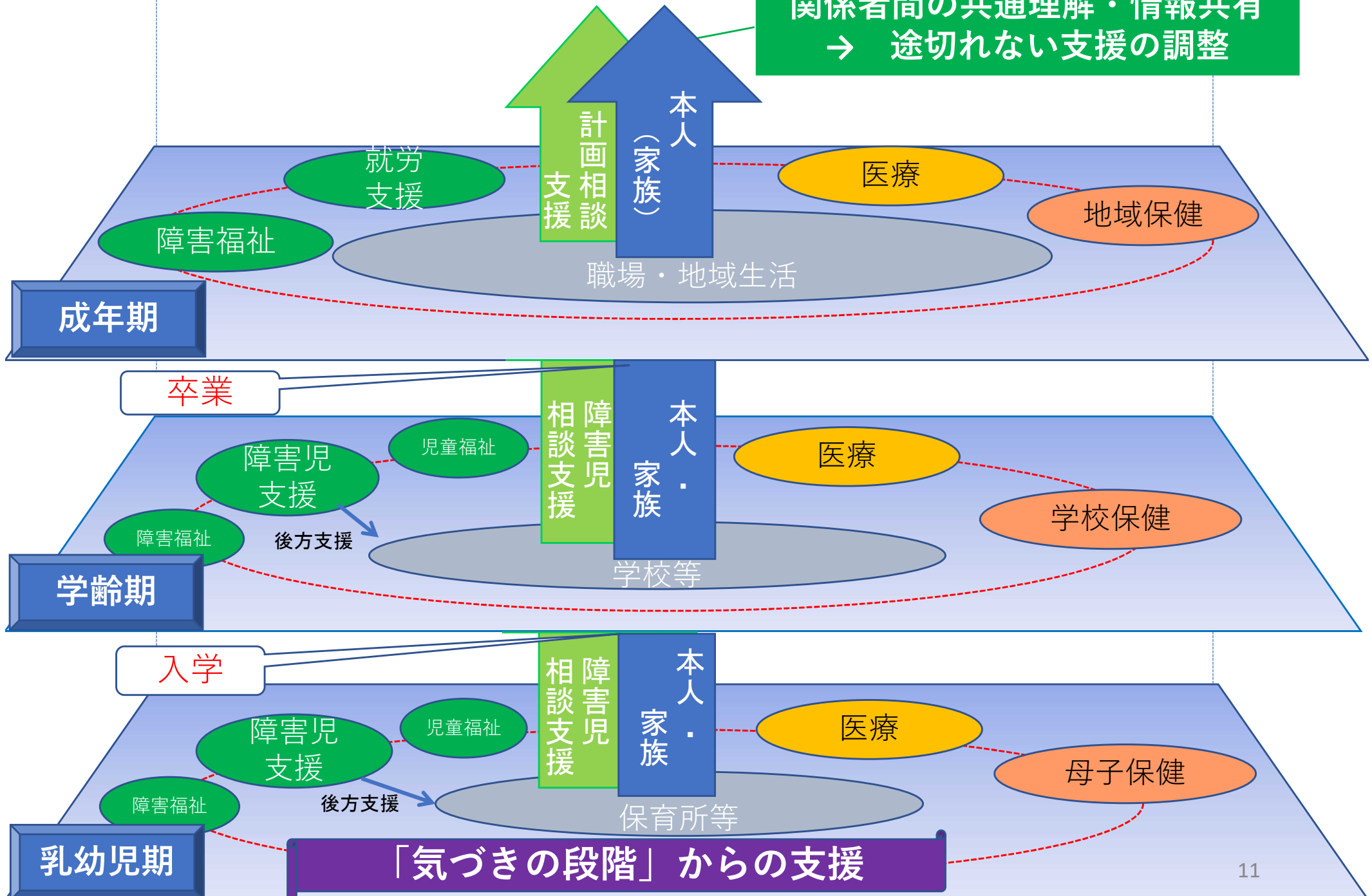
連携の3段階



2022年障害者政策総合研究事業 「相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する評価ツールの開発のための研究」を基に改変

地域における「縦横連携」のイメージ

関係者間の共通理解・情報共有
→ 途切れない支援の調整



連携のヒント

フットワーク

軽い「フットワーク」で、新しい場所に一步足を踏み入れる。また「足でかせいで」即座に課題を解決する姿勢が大切

→ 足でかせぐ



ネットワーク

一步を踏み出し、顔見知りの人たちを増やし、合う都度、情報の共有化を図り、人と人とのネットワークを形成することが大切

→ 顔が見える関係



チームワーク

情報を共有し合い、一緒の場において、同じ目的に向かって支援を探ることを通してチームワークが生まれる

→ 同じ方向を見る関係



社会生活の多様性

～トータルな視点での支援～

